

「令和4年度教育活動評価アンケート」の結果について

- 1 実施日 令和4年12月5日(月)～12月14日(水)
- 2 回答率 生徒 94.5% (前年比+0.1%), 保護者 65.7% (+10.6%), 教職員 97.4% (+10.1%)
- 3 質問項目 「令和4年度教育活動評価アンケート」 質問項目一覧

質問項目(○数字は質問順)	質問内容(全ての質問に「仙台大明成高校では、」を足して答える。)	R3	
1 学校運営	⑧防災教育	災害・非常時の避難方法や連絡方法は伝えられている	④
	⑨開かれた学校づくり	ホームページやお便りなどによって、学校の情報は適切に伝えられている	新
	⑩施設設備	本校の令和3年度から新しくなった施設・設備はよく整備されている	③
	⑭総合満足度	全学年4つの学科となり、所属している学科の学習や取組は充実している	⑤
2 重点年度項目の	⑦特色ある学校づくり	『建学の精神』に根ざした特色ある学校づくりに取り組んでいる	⑥
	⑪いじめ問題	学校として、日ごろからいじめの早期発見に取り組んでいる	⑪
	⑬ICT教育	授業はICT機器を積極的に活用して展開されている。	⑩
3 学校諸活動	①学習指導	学ぶ意欲を引き出し、学力を身につけられるような授業が行われている	⑨
	②生徒指導	挨拶やマナーなどの基本的な生活習慣の確立に関する指導が行われている	⑬
	④教育相談	教員やカウンセラーが必要な時に相談に応じてくれる環境が整っている	新
	⑤部活動	部活動は活発に行われている	⑱
	⑥学校行事	本年度実施できた各種行事は、豊かな人間性の育成という目的を達成している	新
4 高大連携	③進路指導	進路目標の明確化に向けた適切な指導が行われている	⑮
	⑫高大連携	附属高校化して仙台大学との連携・交流活動が進み、授業や実習などで成果があがっている	⑲
⑮自由記述 (生徒) (保護者) (教職員)	日常の教育活動から、学校運営の良い点と思われることがあれば、記述してください 日常の教育活動から、本校教育で良い点と思われることがあれば、記述してください 日常の教育活動から、学校運営の改革に向けた御意見・御提言があれば、記述願います。	⑳	

4 全体の分析結果

※ 肯定的評価：「1 よく当てはまる」、「2 だいたい当てはまる」を合わせた評価
否定的評価：「3 あまり当てはまらない」、「4 当てはまらない」を合わせた評価

(1) 肯定的評価の割合が高い項目と低い項目 [それぞれ上位3項目]

	肯定的評価の割合が高い項目	肯定的評価の割合が低い項目
生徒	① 質問5 部活動 (87.6%)	① 質問6 学校行事 (69.2%)
	② 質問10 施設設備 (84.5%)	② 質問11 いじめ問題 (69.0%)
	③ 質問14 総合満足度 (81.8%)	③ 質問1 学習指導 (73.8%)
保護者	① 質問10 施設設備 (91.8%)	① 質問8 防災教育 (70.8%)
	② 質問14 総合満足度 (90.4%)	② 質問6 学校行事 (77.3%)
	③ 質問5 部活動 (89.6%)	③ 質問11 いじめ問題 (78.3%)
教職員	① 質問5 部活動 (94.5%)	① 質問6 学校行事 (74.3%)
	② 質問11 いじめ問題 (89.2%)	② 質問1 学習指導 (79.7%)
	② 質問14 総合満足度 (89.2%)	② 質問9 開かれた学校づくり (79.7%)

(2) 前年度肯定的評価との比較 ※前年度と質問内容の変更があり、同一内容の11項目間のみ比較

前年度と比較して差が大きい項目ベスト3 [旧項目]	今年度	前年度	比較差
生徒① 質問10 施設設備 [3 学習環境整備]	84.5%	40.1%	44.4%の増
② 質問3 進路指導 [15 キャリア教育]	79.8%	40.1%	39.7%の増
③ 質問8 防災教育 [4 安心安全な学校づくり]	76.1%	39.7%	36.4%の増
保護者① 質問11 いじめ問題 [11 いじめの早期発見]	78.3%	37.4%	40.9%の増
② 質問13 ICT教育 [10 ICT活用授業]	79.2%	43.5%	35.9%の増
③ 質問3 進路指導 [15 キャリア教育]	84.5%	58.3%	26.2%の増
教職員① 質問5 部活動 [18 部活動・ボランティア活動]	94.5%	65.7%	28.8%の増
② 質問12 高大連携 [19 仙台大学との連携]	87.8%	65.7%	22.1%の増
③ 質問13 ICT教育 [10 ICT活用授業]	87.8%	68.6%	19.2%の増

5 各学科毎の回答 (資料1)

6 全体の分析・考察

- ① 保護者・教職員の回答率が前年度と比較して10%向上した。生徒・教職員は回答可能な総数のほぼ全数の回答が得られたが、保護者については特に3年生の保護者からの回答率が低いことから、実施時期や回答方法について、さらに検討する必要がある。
- ② 「学校の教育活動」に対する評価アンケートとの位置づけを明確にしたことから、分析の際の統一感ができた。また、「わからない」との選択肢を削除し4段階の評価としたことで、今年度の肯定的評価の全質問項目の平均は、生徒77.6%(前年度51.2%)、保護者83.2%(前年度61.6%)、教職員85.0%(前年度69.3%)と15~20%程度増加した。
- ③ 前年度との比較により、生徒は「施設設備」を肯定的に感じるようになり、保護者は「いじめ問題」を高く評価するようになり、教職員は「部活動」に対する評価を高めてきた。生徒や保護者については学科毎や学年毎に、教職員については職分毎に分析の必要性がある。
- ④ 「部活動」「施設設備」「総合満足度」が生徒・保護者・教職員ともに割合が高いこと。特に「総合満足度」が上位にあることは、各学科の教育活動全般が良く評価されていると考えられる。
- ⑤ 肯定的評価の割合が低い項目として「学校行事」があげられた。感染症の蔓延する中でいくつか実施できたものの、本来の計画通りにいかなかったことが影響していると思われる。
- ⑥ 生徒・保護者が「いじめ問題」について肯定的評価の割合が低いのに対し、教職員が高くなっているとの差が見られた。生徒と教職員間で20.2%もの差が生じていることから、より具体的な対策の検討が必要である。